

あいあいあい

I eye 愛

2019年
8月号

『ゲノム編集食品・作物の規制と表示を求める 100 万署名』に是非、ご協力ください。 第一次集約 8月31日



環境省 自然環境局 野生生物課外来生物対策室 担当係長(右)に署名を渡す高野恵美子副理事長(左) 2019/1/29 於：衆議院議員第一会館

ゲノム編集食品の表示義務化を求めましょう

理事 藤田 紀子

この夏から店頭に並ぶ「ゲノム編集食品」。聞いたことはあるけれど...という方も多いのではないのでしょうか？今年に入って、唐突ともいえるほどの速さでゲノム編集食品の流通が認められてしまったことを受け、7月に学習会を開催しました。

講師の印鑰智哉氏(日本の種子を守る会事務局アドバイザー)によると、ゲノム編集の背景は遺伝子組み換え農業の行き詰まりの結果であり、規制させないための抜け口であるそうです。しかも遺伝子組み換えと同じ「人為的遺伝子操作である」ということでした。特定の遺伝子を狙って壊すことで、本来の特徴や個性を持たない生命が自由に作られるというのです。これは研究で留めるべきで、安全性が確認できないまま市場に出回ってしまうのは許されることではないと思います。

最近多い土砂災害も、土壌中の微生物が作り出す「根っこ」＝菌根菌糸が農薬や化学肥料の使用によって育っていないことが一因になっているようです。農薬や化学肥料が、土壌ひいては地球環境を破壊している現実に悲しいながらも納得がきました。

先日、「ゲノム編集技術を利用して得られた食品等に関する意見交換会」が行われました。関係省庁から情報提供がありました。が、まだまだ整っていないルールがあるにも関わらず、「実用段階にきている」「これまでの育種と変わらないから安全」と言い切ってしまったこと、非常に残念に思います。表示を願う消費者の声がすんなりと届かないことに失望させられます。

私達の食の安全は、外ならぬ私達自身で守っていかなければならない時にきているのだと思います。まずは関心を持つこと、事実を知ること。そして危険なものには食べたくない！買いたくない！と消費者である私達自らがきちんと意思表示していきましょう。

CONTENTS

- ▶ 憲法改正を考える ... 2
- ▶ 今日には産直肉で肉祭り！ ... 4-5
- ▶ 大郷無農薬交流田生きもの調査 ... 7
- ▶ 七郷 無農薬田んぼにトライ！ ... 3
- ▶ 組合員のスキルを活動に活かして ... 6
- ▶ 生産者さんにあいに行こう！ 秋川牧園の巻 ... 8



ライオンの檻を作るのは私たち

6月21日「檻の中のライオン講演会 in 仙台」報告

理事 後藤咲子

2015年の安保法制改正に伴い、改憲についての話題が取りざたされる事が増えています。ただその一方で、憲法とはそもそも何なのか？という疑問をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「檻の中のライオン」はその疑問に答える「今いちばんわかりやすい憲法の入門書」として話題になり、中学校公民の副教材としても紹介されています。著者の椋大樹（はんどう・たいき）弁護士は自ら全国を回って三百回を超える講演活動をされています。講演の初めに椋先生から「憲法というルールを守らないとい

けないのは誰？」というクイズが出されました。「国民みんなだ！」に挙手した方が多い中、正解は「国民みんなじゃない」と発表されると、ええ〜という声がかえってきました。



椋弁護士のテンポの良いお話で2時間の講演はあっという間に過ぎました



椋先生は権力をライオンに見立てて説明を進めます。「ライオンに私たちの暮らしを整える役割を担ってもらおう代わりに、急に襲われないようきちんと檻に入ってもらおう。その檻こそが憲法なんです」この誤解が生じた原因は、あたかも「憲法は私たちが守るもの」という誤解を与える学校の教科書の記述にあることも紹介されました。

過去の歴史を振り返ると、権力は濫用され、個人の幸福がおびやかされる事がありました。それを防ぐために個人の自由・民主的に物事を決める事・勝手に戦争を起さない事などが条文に記されています。

しかし現在の政府はこれらの規定に反しているという指摘がありました。例えば、これまで政府は長年「集団的自衛権は憲法上行使できない」と説明してきました。これを覆すなら憲法改正手続きが必要になりますが、そのような提案はせず、安保法制の改正を行いました。軍事力をコントロールしなければならぬのは、右派・左派に関わらず必要な事です。その制御が効かない状況になっている事にもっと危機感を持たなくては、と感じました。



日本国憲法12条には「この憲法が国民に保障する自由および権利は国民の不断の努力によつ

てこれを保持しなければならない」とあります。有権者はどのライオンを選ぶか、どのような檻に入ってもらおうか、しっかり考え意を示さなければなりません。ライオンの檻（＝憲法）を作るのは私たちです。ライオンが自分づくると、ライオンにとって都合のよい檻になってしまう事があるからです。

まずは選挙に行くこと、皆で話してみることに。書籍「檻の中のライオン」を読んでもみる事も行動のひとつだと思えます。



檻の中のライオン 椋大樹（著）
1404円
出版社：かもがわ出版 2016年

40周年
生産者が語る
いっしょに歩んだ40年
第六回

40周年を迎えるあいコープには、一緒に歩んできた生産者がたくさんいます。10回にわたり、そんな生産者の皆様のお話をご紹介します。



七郷みつば会/菊地柳秀さん

300年の歴史ある農家の13代目当主。仙台市若林区にて、仙台共同購入会時代から組合員が望む栽培方法で地場青果を生産・供給している。

七郷みつば会とあいコープは、組合員さんが繋いだんですよ。

30年以上前、この辺り(仙台市若林区)は広大な水田地帯でした。

農協が先頭に立って、イモチ防除やら何やらでヘリコプターで白い粉状の農薬を撒くんです。みんな農薬の知識がないから、「農薬散布の重労働から解放される」とか、良い事しか聞かされないでね。でもある日、地域の人から農協や農家に「農薬撒くのをやめてくれ」ってお話が来たんですよ。「学校のプールにまで農薬が入ってます」って。それが当時の仙台共同購入会(現在のあいコープ)の組合員さんだったんです。

その人たちと話してうちに、減農薬の野菜を作ってくれって言われて、個人的に1年くらい買ってもらいました。やがて仙台共同購入会の理事長さんの耳に入ったらしく、取引が決定。虫食ったのや形の悪いのでも買うって言うてもらいました。気の合う

農家で集まって「七郷みつば会」もできてね。ちなみに名前を付けたのはうちのかあちゃんです。

当時、理事さんたちが本当に一生懸命関わってくれました。畑も手伝ってくれたし、交流もいっぱいやったな。子供たちと餅つきしたりもしました。「食べる」は人間の基本だからね、それを担う「農業」を子供たちもしっかり理解してもらいたい。ただ買ってくるわけじゃなく、作る人がいるってことを解って食べて欲しいですね。組合員さんの子供たちは交流でそういう経験ができてから期待しています。これからもずっと交流して行きましょう。

菊地柳秀

取材中、震災時のあいコープによる支援に対し感謝の言葉を沢山頂きましたが、それ以上になんと大きなものを生産者さんから日々頂いているのだから！と実感する、書き尽くせないほどのエピソードがありました。こちらこそ感謝感謝です。

編集部

七郷初の無農薬田んぼ『トライ田んぼ』挑戦開始！



上: 田植え機
で田植え
右: 草取り



七郷みつば会では、今年から『七郷トライ田んぼ』と称して初めての無農薬交流田の活動がスタートしました。目的は、お米を育てる体験を通して、宮城の田んぼや畑を守り、農業に関われば自分たちの食を守ることに繋がることの理解にあります。登録制のこのイベントには6家族21名の申込みがありました。

5月25日には田植えが行われ、半分は手植え、もう半分は子ども達を田植え機に乗せて、田植えを体験。田植えが終わると、除草剤不使用の田んぼでは雑草との戦いが続きます。それを知った参加者の中には、イベント開催予定日以外にも草取り作業をする人がいるほど。一週間に一度の草取りでは、どうして間に合わないそうです。同時に、職員の商品学習も七郷みつば会を舞台として展開されているので、職員も無農薬田んぼに通っています。



生き物調査にはたくさんの子どもたちが参加

そして7月13日には、むかつち博士こと向井康夫さんをお招きして田んぼの生き物調べをしました。もちろん草取り作業も同時に行います。びっしり生えた雑草を集中して取った後は、お楽しみみの生き物調べ！小さな子供でも容易に観察できる博士オリジナルの顕微鏡に参加者一同感激！生きものが動いているのを確認したら、資料を見ながら名前を探り当て、博士にホワイトボードに書いてもらい、成果を感じることが出来た子ども達でした。

雑草の名前や除草剤との関係も教えていただき、子供に合わせたお話で稲の成長過程や農家の方に感謝するお話をさせて頂きました。

この後も七郷みつば会のみなさんのご協力のもと、交流と学習をしていきます。

理事 太田代一世

あいコープみやぎならではの**自慢**の商品をご紹介します。きっと「**すごい!**」が見つかります。③スタミナ焼肉 Ver.

プライベートブランド
P Bで
より一層引き立つ
産直肉の旨み!

趙さんの焼肉のたれ 中辛 (趙さんの味)

主原料の醤油はあいコープの国産丸大豆醤油! さらに組合員の要望に応じて開発された、化学調味料不使用の貴重な焼肉のたれです。肉の味を引き立てる事間違いなし。



じもとん

柔らかくて美味しいねえ。大郷みどり会のお米を食べてる豚さんなの? ! ぼくと同じだ〜! (※豚さんが食べているのは大郷みどり会の「飼料米」です) 飲み水も、バクテリアの働きで作られた生き物に優しい水なんだから。ただのお水じゃないんだね。お肉の脂のところ、ぼくちょっと苦手だったけど、あいコープの豚肉だと美味しいんだよ。残さないで食べます (^_^)



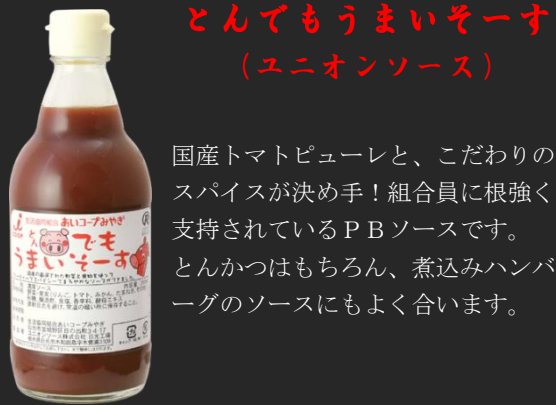
産直牛

世の中いろんなブランド牛があるけれど、あいコープの産直牛は特別な餌を食べているらしいよ〜。農場のすぐそばで作った自家製牧草! しかも生産者こだわりのお水を利用したり、何年も発酵させた特殊な牧草を食べさせたりしてるのが自慢なんですって。健康な牛のお肉、やっぱりおいしい♪放牧牛を育てるプロジェクトも進行中なんだから! ますますあいコープの牛肉に期待しちゃうね!

米沢郷の鶏肉



こんなに臭みのない鶏肉は珍しいね! 窓があって明るく風通しのいい鶏舎で健康に育てられているらしいぞ。抗生剤も使われてないんだよ。良い環境だからこそだね。米沢郷牧場では鶏糞→それを利用して米作り→それを餌にして鶏の飼育→鶏糞…って循環がされているんだ。いい餌を食べて健康に育った鶏、だから臭くなく塩だけで美味しい、納得! ありがたう! いただきます。



とんでもうまいソース (ユニオンソース)

国産トマトピューレと、こだわりのスパイスが決め手! 組合員に根強く支持されているPBソースです。とんかつはもちろん、煮込みハンバーグのソースにもよく合います。



あいコープみやぎ自慢の産直肉。安全な飼料を餌とし、アニマルウェルフェア(福祉)に基づき飼育をされた牛・豚・鶏です。(動物生産者の魂のこもった、本当のお肉の美味しさをどうぞ堪能ください。)

焼いただけで美味いんだ

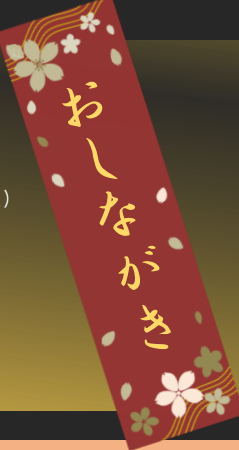
今日は産直肉で肉祭り!



豚モモスライス (田尻あい豚会) 300g 485円 (税込)



鶏スペアリブ (米沢郷牧場) 300g 516円 (税込)



鶏モモ正肉 (米沢郷牧場) 300g 538円 (税込)



産直牛カレーシチュー用 (田口農場 田尻エコ畜産協議会) 240g 1,132円 (税込)

わだいのたねまき



「命の水を守る全国をつどい in 宮城」に参加

生活に欠かせない水道事業は、老朽化した設備の更新に多額の費用が必要となるなど多くの課題を抱えています。宮城県は昨年12月に改正された水道法で導入された水道民営化(コンセッション)方式を全国に先駆けて進めようとしています。

みやぎ型の水道民営化方式とは何か、それは水道の安全安心を保障していけるかを考える「命の水を守る全国をつどい in 宮城」が6月29日、仙台市内で開催されました。集会では多くの報告を通して水道民営化が抱える問題が浮き彫りされました。集会の最後に10月県議選で「水道民営化」問題を争点に押し上げるべく市民の関心を高め声を上げていくことが呼びかけられました。



「暴走する遺伝子操作技術~市民の力で歯止めをかけよう~」報告会参加

7/13 東京にて表題の報告会が行われました。今年では全国で906検体を検査し、66ものGMナタネが確認されたそうです。あいコープでは17検体を調べ全て陰性だったこと、ゲノム編集食品学習会をし、アンケートに寄せられた声を厚労省等主催の意見交換会で訴えてきたことなどを報告。他生協からは、神戸港のGMナタネ自生が多かったこと、行政へ働きかけたことでの調査に自治体職員が同行するところもあったことなど報告がありました。

「遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン」代表の天笠啓祐さんからは、ゲノム編集食品の問題について今まさに正念場にあること、この問題は原発問題と非常に似ている点が多いこと、市民の力は侮れないので諦めず行政に訴えましようというお話がありました。知れば知るほど腹の立つゲノム編集食品、「こんなのいらない」の声をあげ、私達の暮らしを守りましょう!



始めよう！続けよう！ 石けん生活

シャボン玉フォーラム報告

人と自然はつながっている
だから環境問題は「人」の問題

せっけん使用を入り口に環境保全を考える「せっけん運動ネットワーク」は、毎年、参加団体が持ち回りで全国集会「シャボン玉フォーラム」を開催しています。5月18日から19日にかけて開催された「2019 シャボン玉フォーラム in 山口」に今年は理事2名が参加してきました。

初めに、あいコープが石けん利用伸長率優秀団体の一つとして表彰されました。石けん環境委員会を中心に「使うなら石けんを」と活動していることが組合員の利用の広がりにつながっています。



オープニングの様子

全体会では、「知つちよる？ぶち豊かな山口の自然やまぐち発！地球の未来のために私たちができること」というタイトルのもと、日本最大のカルスト台地・秋吉台、地下に広がる洞窟・秋芳洞などの雄大な自然と人とのつながりについての基調講演がありました。秋吉台の草原は、放っておけばたちまち荒れて森林になるところを、人の手が加わることで草原として維持されているそうです。また、地下の秋芳洞は、地上で人が生み出している汚れがダイレクトに地下に影響するそうで、それを最小限にする取組みが行われた結果の現在の秋芳洞だという事です。

まさに、環境問題とは「人」の問題で、自分が起こした行動がどんな影響を及ぼすかを考えなければいけないというお話が心に残りました。人と自然が共生していくために、私たちにできることは何か、全国の仲間とともに考え、活動していきたいと思えます。

理事 原子 良恵

まんま通信のある暮らし

6/21 (金)
太白地区

あなたの特技を組合員活動に活かしてみませんか
組合員講師に教わる米粉パン講座開催

6月21日、富沢市民センターで、太白地区委員でもあり、専門学校の講師やパン・お菓子教室を主宰されている田端眞理子さんを講師に迎え「米粉パン講座」を開催しました。6月の初めに、地区委員会で大郷の米粉を生産している



講師の田端眞理子さん

「わはわ味明」の製粉工場を見学し、原料や米粉の製粉過程などを事前学習してから講座に臨みました。見学の際講師の田端さんは「大郷の米粉は胚芽が残った状態で製粉されているのが他の米粉にはない特徴で、栄養価も高いのではないかとおっしゃっていました。」

ナッツとバナナのジャム。他にパイナップルの芯で作ったサワードリンク、フルーツとエビのナチョサラダと、普段あまりなじみのない食材の組み合わせが新鮮で美味しく、参加者の皆さんに好評でした。

講座では大郷の米粉とあいコープのこだわり食材を使い、約2時間でしつとりふわふわの米粉パンを焼きあげました！パンに添えたのは旬のパイ

あいコープでは、県内10地区の地区委員会があり、様々な資格や特技をお持ちの地区委員さんが活動しています。今年には地区委員の皆さんのスキルを持ち寄り、企画の講師として登録して頂く取り組みが始まります。料理に限らず、生活全般の資格や特技をお持ちの方を今後募集していく予定です。我こそは！と思う方は、ぜひ地区委員になって講師として活躍してみませんか？たくさんの方のご登録をお待ちしております。



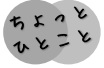
米粉をこねて...

理事 石川 佳名子

理事会議事録抄

2019年7月2日(火)
▼第31回通常総代会の振り返りを行った▼PBリブラに伴う新ロゴ及びネーミング決定までのスケジュールを確認した▼2019年度委員会活動予算を承認した▼お祭り実行委員会からの提案を承認した▼2019秋のフォーラム企画案を承認した▼NPO法人とうほく食育実践協会食育コンダクター派遣料設定見直しを行った▼総代向け通信送付について検討した

組織概要 (2019年6月分)	
【組合員数】	13,270名
【供給高】	190,623千円
【一人実利用高】	5,289円/週
【出資金】	1,140,410千円



①「目からウロコ」でした。とても参考になりました。今日から石けんに変えようと思います。
「お財布にやさしい...」です。 「クリーニング屋さんで教わるカラダにいい洗濯術」参加者

組合員と生産者の交流が培った 無農薬交流田には生き物がいっぱい！

今年もやってきました!! 皆さんお待ちかねの『田んぼに行こう! 生き物調査』が大郷みどり会の田んぼにて開催されました。あいにくの小雨で決行が危ぶまれたものの、子ども達の元気に押されてか、雨が止み心ゆくまで田んぼの生き物を見つける事ができました。

大郷みどり会の郷右近秀俊さんが無農薬交流田に取り組み始めた頃は、田んぼ一面のイネが白くなり全滅した年もあったそう。そういった逆境を乗り越え、米ぬかなどの有機肥料を与えることで、田んぼがトロトロになり、ユスリカやイトミミズなどの虫が増え、それを食べるクモが増え、このクモがカメムシも食べてくれるという自然の連鎖が生まれ、今の無農薬田が成り立っているそうです。この技術や環境を確立するのに、30年以上かかったと郷右近さんはおっしゃっていました。



トンボを狙って…えいっ!

が飛び交っているようですが、当日は小雨が降っていたこともあり、田んぼのイネに止まったり一休みしていましたよ。

終了時間をだいぶ過ぎても、子ども達の好奇心は飽くことなく、自然を身体いっぱい感じて親子で楽しんでいました。昔は、当たり前だったはずなのに今では特別になってしまった安全・安心な環境で、親子が自然におもいづきり触れられる、本当にありがたい会になったと思います。そして、このような地道な努力を続けてこられた郷右近さんをはじめとする生産者の皆さんに大変感動しました。次は、『稲刈り』です、ぜひ多くの方のご参加お待ちしております!!

理事 大木その子



私のオススメ商品 あいコープの豆腐 もめん



私のおすすめする商品は「あいコープの豆腐もめん」。手揚げと迷いましたが僅差で勝利です。昨年あいコープに入協してすぐに継続利用登録しました。

まず、味の濃さに驚きました。そのまま食べてもここまで「しっかり」と豆の味、香り、甘味まで感じる豆腐はお目にかかれなと思います。でも、もっと驚いたのは豆腐嫌いの嫁が進んで食べていることでしたが(笑)原料大豆は厳選されたおいしい品種。それを混ぜ、一年間変わらない味に仕上げる職人の技。だまされたと思って、一度食べてみてください。おいしいですよ! 商品部商品課 高橋翔

編集後記

今月号の取材で七郷の菊地柳秀さんとお話した時、柳秀さんが「製品にすると食品ロスが出る」とおっしゃいました。なるほど、例えばおにぎりは売れ残ったら廃棄しかないですが、米は炊かなければ保存できます。ガンガン売って儲けるために手軽な製品にして店頭と並べ、売れ残ったら捨てる現代の販売スタイルに悲しさを感じました。毎月様々な生産者さんに取材するたびに、必ず「目からウロコ体験」をする私。今回も、「農家のおんちゃん」の深い一言にウロコがポロリ!(そしておにぎりは、もちろん手作りのほうが美味しいです。)

理事 鈴木真奈美

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、配送もしくはFAX(022-284-6973)にて、あいコープみやぎ理事会へ広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つぶやき』も大募集中!

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2019年5月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	47件	利用延べ人数	42名
集団託児	26件	◆ケア時間	
慶弔・出産	13件		178時間
電話相談窓口	7件		
計	93件		

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



022-284-7277 平日 9:00~17:00

8/6(火)・・・年金相談 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

8/6(火)・・・法律相談 弁護士 倉林千枝子氏
13:30~15:30

8/6(火)・・・子ども相談 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
10:00~12:00

8/26(月)・・・思春期相談 臨床心理士・スクールカウンセラー 北條貴子氏
9:30~11:30

介護相談 (ケアプランセンター木れび 山崎彰子氏)は

相談希望日を伺います。

▼各相談窓口前週の日曜日までには予約して下さい。随時受け付け可能です。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

●日本の生きずらさは何なのだろうと思っていましたが、ライオンが知らない間にどんどん檻を拡大して私たちのスペースが狭くなってきているのかなあ…と感じました。
「檻の中のライオン 憲法ってなんだろう?」アンケートより



秋川牧園
営業部次長 佐藤尚志さん

『からだに入る化学物質をいかに減らすか』

というテーマに基づいた冷凍食品です



穀物飼料をほぼ輸入に頼っている日本では、遺伝子組み換え飼料を使わない畜産はわずかです。その中で、牧場を『GMO フリーゾーン宣言』(遺伝子組み換え作物を作らない、使わない、などを宣言する)をしている秋川牧園の学習会を開催しました。

あいコープで取り扱っている商品はほぼ鶏むね肉の加工品です。それはなぜでしょう。皆さんは『部位バランス』という言葉をご存知でしょうか。日本の消費者は鶏モモ肉を好むようで、テーブルミートとしてはモモ肉だけがたくさん売れてしまいます。そう、お分かりですね。モモ肉ばかりの鶏は存在しません。だから、部位のバランスを取るために、秋川牧園ではムネ肉を使って加工品を作っているのです。今回の学習会では、飼育方法のこだわりは当然のことながら、部位バランスを考えた購買活動が必要であることを、丸鶏の解体を通して学ぶことが出来ました。唐揚げやナゲットなどの鶏を使った冷凍食品を買うなら、『からだに入る化学物質をいかに減らすか』というテーマで育てられた鶏をまるごと頂くために、秋川牧園の商品を選んでみませんか?



日頃より弊社の冷凍加工品のご利用を頂き誠にありがとうございます。秋川牧園は山口県山口市で1972年に創業した畜産を中心とした農業の会社です。冷凍加工品以外にも、鶏肉、鶏卵、牛乳、乳製品、牛肉、豚肉、野菜など生産品目は多岐に渡ります。皆さんにご利用頂いている冷凍加工品も鶏を健康に育てるところから、自社工場製品化するまでを一貫生産しています。

原料となる若鶏は広々とした開放型鶏舎で市販よりは15日程度長く飼育しています。また餌には抗生物質や合成抗菌剤、遺伝子組換え作物、残留農薬が心配な動物性飼料やポストハーベスト農薬を使用したトウモロコシを使わず、健康に育つよう愛情を込めて育てています。

創始者の「口に入るものは間違っはいけない」をモットーに、私たちがつくった物で食べた人を笑顔にしたい、そんな想いで日々の生産・製造に励んでおります。

Calendar

今後のイベント

8/27(火) 若林地区委員会 オープン定例会
玉ねぎ染めワークショップ

場所/ 若林区中央市民センター・別棟
時間/ 10:00~12:30 参加費 500円

9/1(日) **エコフェスタ**
あいコープみやぎもブース出店します

場所/ 勾当台公園市民広場
時間/ 10:00~15:00

9/6(金) 脱原発エネルギーシフト委員会
鎌仲ひとみ監督の原子力防災

場所/ 日立システムズホール エッグホール
時間/ 9:45~12:00

9/10(火) 石けん環境委員会
マイクロプラスチック環境学習会

場所/ 生涯学習センター 大会議室(七ヶ浜町)
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

9/12(木) 青葉A地区委員会
ウエルカム パーティ

場所/ 広瀬市民センター和室2
時間/ 10:00~12:00 参加費/300円

地区委員さん募集中!
一定例会見学も受付中ー

地区委員会は

楽しい!
おいしい!
学べる!!

あいコープの仲間だから
本音トークができます。

お問い合わせ先
0120-255-044
Fax 0120-849-324

Email soshiki@mamma.coop
(担当: 組織運営室長 豊嶋)

